

令和 6 年度 自己評価結果公表

社会福祉法人クオラ

事業所内保育所わんぱくキッズ

1, 評価と取り組み状況

評価項目	取 り 組 み 状 況
保育内容 ・計画・環境作り	・0 歳～2 歳という異年齢の中で、ひとりひとりと丁寧に関わりながら愛着関係をしっかり築いて子どもの思いを受け止める保育を心がけた。 ・体を動かす運動遊びやわらべ歌遊びなどスキンシップを用いた遊びを年間を通してほぼ毎日とり入れ、自分でできた喜びを味わえるように配慮をした。そうすることで、気持ちを思いきり表現し安心して過ごせた。 ・クオラキッズの運動会やお店屋さんごっこなど合同行事や山遊びに参加するなど、交流することで同年齢の友だちとの関りができた。 ・異年齢児とかかわる中で、年下に対しての思いやりや優しい気持ちも育ってきている。
こどもへのかかわり	・子どもの権利を一番に考えた関わり方を心掛け、ひとりひとりの成長発達をとらえるために保育者で話し合いながら、目指す姿を入れた「個人記録」の作成を行った。ひとりひとりの子どもの思いを受け止め、1 対 1 で寄り添うことに努め、安心して生活ができています。 ・生活リズムはひとりひとりの状態を把握しながら子どもがしようとする気持ちを尊重し対応した。
保護者対応 ・日々の連絡 ・ご意見対応	・誕生会と一緒に保護者参観を実施し、園生活、家庭での様子の情報交換を行った。また必要に応じて個人面談をして育児等の相談にも対応した。その中で希望される方は給食の喫食もできた。 ・感染症や台風等の対応について早めの連絡を行い周知に努めた。 ・連絡帳を ICT 化し、保護者は自分のスマホから子どもの様子等の確認ができるようになり、以前より詳しく情報が出せるようになった。 ・運営の改善に対しての意見の対応については、職員間で話し合い検討した結果を保護者に周知した。
保育者同士の協力・連携	・毎日の朝礼で申し送りをし、一日の流れや報告を職員間やクオラキッズと共有してきた。また、問題点に関してもその都度、話し合い対策に努めた。 ・毎月 1 回の職員研修会を開いて、発達段階について振り返りを行い月の反省をするとともにひとりひとりに合わせた助言等をもらえる機会となった。 ・健康面や食育に関してはクオラキッズの看護師や栄養士と連携をとり、相談し、協力を得た。
食育・給食	・ピーマンやミニトマト、ナスなど夏野菜を育て子ども達が水かけを行いながら観察をすることで野菜ができるまでの過程を知り、野菜に興味をもって食べることへの喜びに繋がった。 ・和食を多く取り入れ、野菜を十分に使用したメニューの組み合わせを検討してきた。副菜には野菜が入っている為、噛む力も出てきて野菜もよく食べるようになってきた。 ・定期的に栄養士と離乳食の進み具合や発達状況を話し合い、無理なくすすめていっている。
安全・衛生・健康管理への配慮	・子どもの朝の視診を入念に行い、体調がいつもと違う場合は、行動面の観察を十分に行い、早めに気づく配慮をした。 ・感染症の発生時には、早めに各家庭に知らせ、部屋の消毒等を行い流行を防いだ。 ・部屋で使う遊具は使用後、洗ったり消毒したり滅菌庫に入れるなどして感染防止に努めた。

	・遊具や危険場所の点検をし、事故の対応などマニュアルに沿って安全対策に配慮した。
研修 (資質向上の 取り組み)	・子どもへの関わり方、子どもに対しての理解等の研修会(園外、園内)に職員全員が把握できるように平等に参加する。 ・子どもの人権、虐待、接遇について職員全員の意識を高める研修をした。 ・危機管理、感染症対応について意識を高める研修を行った。

2, 今後取り組むべき課題

保育方針・理念	・子どもの気持ちを尊重し、個々に寄り添い愛情豊かに関わっていく。
保護者対応	・保護者参加の行事等を早めに周知する。 ・子どもひとりひとりについて家庭の様子を理解し、信頼関係作りに努める。 ・園便り、連絡帳などで園生活の様子を丁寧に伝える。
安全・衛生・健康管理 への配慮	・予測されるこどもの行動を把握し、事故防止に努めるなど危機管理能力をさらに高める。
保育者同士の連携	・連絡漏れがないように周知の方法を検討していく。
研修・資質向上	・子ども理解を深めるために広い視野を持ち、さらに専門的に子どもや保護者に対応できるよう研修していきたい。

以上の通り報告いたします。

令和 7 年 2 月 28 日
事業所内保育所わんぱくキッズ
管理保育士 大山 寿子